

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	その他指導内容や指導方法において特徴ある工夫が行われている実践事例
-------	-----------------------------------

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

香川県丸亀市

#### ○学校名

丸亀市立本島中学校

#### ○学校のURL

<http://www.honjima-j.ed.jp>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】各学年1学級 【合計】3学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】15名（平成24年11月19日現在）  
（内訳：1年生6人、2年生3人、3年生6人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】 夢に向かってなかまと共に伸びゆく生徒の育成  
くめざす生徒像>

ほん気で

- 真剣に学習に取り組み、積極的に行事に関わる生徒
- 真摯に相手と向き合い、傾聴することができる生徒

じ信をもって

- お互いのよさを認め合い、やさしさを育む生徒
- 自分の考えを持ち、しっかりと行動できる生徒

まえ向きに

- 進んで運動し、強い意志と丈夫な体を育む生徒
- プラス思考で物事に取り組むことができる生徒

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

【研究主題】 確かな学力と豊かな人権感覚を育む教育の推進  
－自尊感情を培う教育活動を通して－

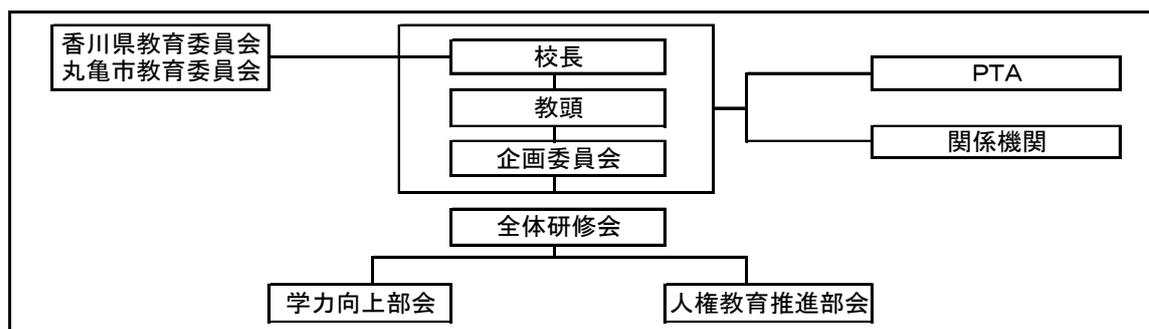
【研究仮説】 全ての教育活動に自尊感情を高める手立てを講じることで、確かな学力と豊かな人権感覚を育むことができるであろう。

- (1) 学習の過程で「自己存在感」「共感的人間関係」「自己決定」の3つの機能を生かした活動を設定したり、生徒のよさを引き出す支援や評価を取り入れたりとすることで、自尊感情が高まり、それがなかまと共にがんばろうとする意識を高め、確かな学力へと繋がっていくだろう。

(2) 地域に学ぶ学習や交流学习などにおいて人との出会いを大切にしたり、構成的グループエンカウンターや人権劇等を通して互いの関係性を深めたりして人間関係を構築していく活動の中で、自尊感情が高まり豊かな人権感覚が培われるだろう。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 1 研究組織



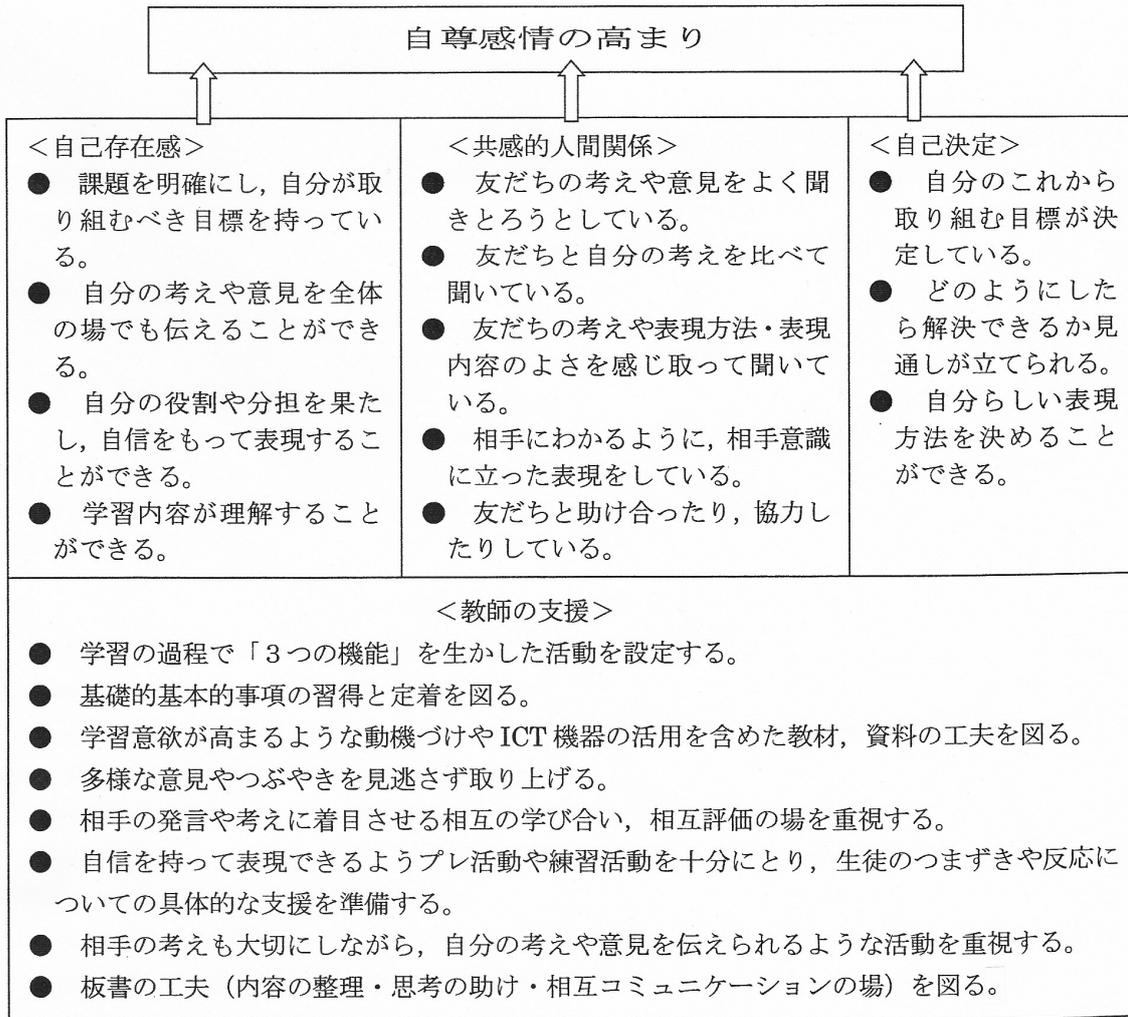
#### 2 具体的実践事例

##### (1) 学習の過程の中で自尊感情を高める取組

###### ① 自尊感情を育てる指導の工夫

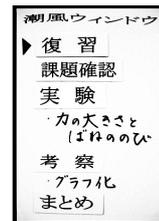
生徒が学習内容の理解ができることに加え、学習の過程で〈自己存在感〉〈共感的人間関係〉〈自己決定〉の3つの機能を生かした活動を設定し、生徒が自らのよさを発揮できるように教員が支援を重ねることが自尊感情の高まりにつながり、この高まりが他の領域への自信にもつながると考えた。そこで、以下のように自尊感情を育てる機能と教員の支援の在り方を共通理解し、それぞれの授業に取り入れた。

## 【自尊感情を育てる機能と教員の支援】



### ②「潮風ウィンドウ」の活用

授業の見通しを持たせ、学習に集中させるために、本時の流れ等を簡略化して示した「潮風ウィンドウ」を各教室に毎時間提示した。



黒板に掲げた潮風ウィンドウ

### ③補充学習（潮風チャレンジ）

毎週水・金曜日を45分授業とし、その後7時間目に補充学習の時間を30分間設けた。

### ④言語活動の充実

毎月の生徒集会で、生徒と教員が1名ずつスピーチを実施した。スピーチをした生徒には、話し方でよかった点と感想を書いたカードを渡した。

### ⑤家庭学習の習慣化

自主学習ノート（チャレンジノート）を活用し、毎日1ページ分の自主学習に取り組みさせた。また、金曜日には週末の課題一覧のプリントを配布した。

## (2) 様々な交流を通して自尊感情を高める取組

### ①人権総合学習

本校では、総合的な学習の時間を「潮風タイム」と呼び、人権総合学習の中心に位置づけている。

今年度の全体テーマは昨年度に引き続き「なかまー思いを伝える・思いに応える」である。自分のよさに気づかず自信がもてない生徒に対し、自分の考えを素直に述べる

年度	「潮風タイム」のテーマ（全学年）
平成 17 年度	なかま-自分をみつめて-
18 年度	なかま-つながろう・高めあおう-
19 年度	なかま-支えること・自立すること-
20 年度	なかま 自分 居場所
21 年度	なかま-思いを伝える-
22 年度	なかま -思いを伝える・思いが伝わる-
23 年度	なかま -思いを伝える・思いに応える-
24 年度	なかま -思いを伝える・思いに応える-

ことが友だちとつながるきっかけになること、また相手もそれに応えることでなかまが増えていくことを、みんなが理解し実行できることをねらいとして設定した。

「潮風タイム」は、全学年合同で実施する学習と学年ごとの学習に分かれており、学年の前半は全学年合同で、後半は学年別での学習に取り組んでいる。全学年合同学習では、平成 23 年度はハンセン病について、今年度は部落差別問題について学習した。

### ②島外の人たちとの交流と出会い

総合的な学習の時間を活用し、島外にある大学の教授の指導を受けながら実践を重ねている。10 年前からその大学の学生を本校に招くなど、継続的に交流会を実施している。また、島外から優れた実践を行っている講師を招き、生徒との出会いの場を設けている。

### ③人権劇

保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同文化祭である「本島っ子まつり」において、地域の方々の前で「潮風タイム」での学習成果を人権劇にして発表している。内容は、「潮風タイム」の時間に学んだことを再確認し、その学習をしたときの意見や感想を、再度自分の言葉で表現する構成劇である。平成 23 年度は「ハンセン病を知っていますか」、今年度は「風呂屋への抗議ーおじいさんの体験からー」という人権劇に取り組んだ。

### ④構成的グループエンカウンター（SGE）

人間関係の構築や自尊感情を高めるため、SGEを取り入れた授業を計画的に取り入れ、全校生と全教員が本音で語り合える場を設定した。

### (3) 生徒のよさを引き出す支援や評価を通して自尊感情を高める取組

#### ①校内掲示

なかま同士の絆を深めることをねらい、一人一人の月目標や自分自身の素直な思いを紹介することで、友だちのよいところを見つけられるように校内掲示を工夫した。



掲示版「なかまと共にチーム本島」

#### ②「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」等の実施

個々の子どもや学級の状態を客観的に把握するために、「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」や自尊感情に関する調査を実施している。また、継続して「市・学校生活アンケート」を実施しており、これらの結果を受けて個々の生徒への支援や学級の雰囲気づくりに努めている。

## 4. 実践事例の実績、実施による効果

### (1) 学習の過程の中で自尊感情を高める取組

- 「潮風ウィンドウ」の提示により、1時間の学習を見通すことができるようになり、授業に集中し、主体的に学習しようとする態度が見られるようになった。
- 全国学習状況調査の結果（資料1）から、生徒は学習の重要性を理解し、授業に真面目に取り組んでいることがうかがえる。
- 「潮風チャレンジ」（補充学習）は、自分の苦手なところを質問することができ、自分の進度で取り組めるなど生徒に概ね好評である。
- 「市・学校生活アンケート」の結果（資料2）から、前期と後期の学習内容の難易度の違いの影響があると考えられるが、ほとんどの生徒が「授業が楽しい」と感じていることがわかる。
- 同上の結果（資料2）から、授業の理解度について、約8割の生徒が理解できていると感じていることがわかる。

（資料1）「H24 全国学力学習状況調査・生徒質問調査」における本校3年生の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が全国より10ポイント以上上回る項目

		全国 (%)	本校
勉強が好きだ	国語	58.3	◎
	数学	52.8	◎
	理科	61.7	◎
勉強は大切だ	国語	90.0	◎
	数学	82.2	◎
	理科	69.1	◎
授業の内容はよく分かる	国語	71.8	◎
	数学	65.8	◎
	理科	64.7	◎
将来社会に出たときに役に立つ	国語	82.7	◎
	数学	71.3	◎
	理科	52.6	◎

- 昨年度の県学習状況調査では、普段の授業で「自分の考えを発表する機会が与えられている」「友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対して、生徒全員が肯定的にとらえており、それが「授業が楽しい」と感じている大きな理由と考えられる。

(資料2)「市・学校生活アンケート」における「とても思う」「思う」の割合 (%)

	H22 前期	H22 後期	H23 前期	H23 後期	H24 前期
授業の楽しさ	45.5	36.4	78.6	57.1	73.3
授業の理解度	81.8	72.7	78.6	78.6	80.0

(2) 様々な交流を通して自尊感情を高める取組

○「市・学校生活アンケート」の結果(資料3)から、「先生の関わり」「係活動等の頑張り」「感謝された経験」「有用感の経験」の項目において、自己を肯定的に評価している割合が高くなっている。人との出会いを大切にした「潮風タイム」などを通して、なかま意識や自己有用感が高まったことがうかがえる。

○人権劇の取組を通して、いろいろな人権課題を自分の生き方と結びつけて考えることができる生徒が多くなった。友だちと協力しようとする態度が見られる場面が増え、それまでに学んだことを自分のものとして身につけていくことができている。台詞に込められた思いを受け止め、それを伝えることで自己と向き合い、自己開示へと繋がっている。

(資料3)「市・学校生活アンケート」における「とても思う」「思う」の割合 (%)

	H23 前期	H23 後期	H24 前期
先生の関わり	71.4	71.4	86.7
係活動等の頑張り	71.4	71.4	86.7
感謝された経験	57.1	57.1	73.3
有用感の経験	42.9	50.0	53.3

(3) 生徒のよさを引き出す支援や評価を通して自尊感情を高める取組

○継続して学校生活・自尊感情に関するアンケート調査を実施しており、客観的に生徒の状況を冷静に判断することができた。

○昨年度の「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」では、支援が必要な生徒について、スクールカウンセラーの指導助言をいただきながら全教職員で事例研究をして生徒理解に努め、それぞれの実践に反映させていった。その結果、再度「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」をしたところ、よりよい状況へ改善している。全教職員で生徒の情報を共有することにより、より多面的に個のよさを引き出す支援を実施することができたと考えられる。また、その中で他の個の見立ても深めることができた。

## 5. 実践事例についての評価

本校は、丸亀市の沖に浮かぶ島にあるへき地校である。そのことによる課題もあるだろうが、「へき地校でしかできない教育」「へき地校だからこそできる活動」を考え、「確かな学力」と「豊かな人権感覚」の育成を指導の両輪に、なかまと共に伸びゆく生徒の育成をめざして取り組んできた。そして、義務教育を終えた子どもたちが、

変化の激しいこれからの社会の中で自立・自律した社会人となり、新しい時代を主体的、創造的に生き抜いていってほしいとの願いから、その力の礎となる自尊感情を育てる環境を整えることが重要であると考え、様々な実践を行ってきた。

その結果、教育活動全体を見直し、子どもへのかかわりを深める中で、まず、私たち教職員の授業改善に向けた意識向上や人権・同和教育の視点にたった見方等が変革していき、そしてそれが生徒の「確かな学力」や「豊かな人権感覚」の育成に繋がっていると考えられる。

もちろんまだまだ研究途上であり、課題も山積みしている。特に、自尊感情の育成においては、客観的評価の難しさもあり、生徒の心情を推し量ることの困難さを痛感している。また、学力の底上げと個に応じた学習指導の在り方など、取り組むほどに新たな課題が明らかになってきた。しかし、欠席者数の減少、子どもたちの落ち着いた学校生活など、集団の一員としての成長は教職員の主観的な実感だけでなく、長年子どもたちの成長を見守ってくれているスクールカウンセラーや巡回相談員からもその成果が示されている。これからもさらに研究・実践を深め、子どもたちが胸を張って卒業し、自らの力で人生を切り開いていくための「確かな学力」と「豊かな人権感覚」の育成に専心していきたいと考えている。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

丸亀市立本島中学校

人権教育を推進するに当たり、子ども一人一人の自己肯定感を高めることは、重要な視点である。本事例では、友達のよさを認め共有し合うための校内掲示や、学級集団の傾向を把握するためのアンケートを取り入れ、生徒理解を深めている。これらのことは、どのような学校規模であっても参考にし、取り組むことのできる内容である。

本校では、総合的な学習の時間「潮風タイム」において、人権課題を取り上げた学習に取り組み、その成果を人権劇にまとめ表現している。全校生徒 15 名の小規模校であることを踏まえ、その劇を保・幼・小・中学校合同の文化祭の場で発表し、地域の方々からも評価を得ている。人と人との関わりの中で得られる充実感や成成感、自己に対する肯定的な心情や態度を育てていく。人権教育を通じて自己肯定感等を育てていく取組を考える際に、参考となる事例である。